

歴文研修会

『環濠の街
今井町とその周辺を歩く』

(平成27年1月12日)

1月12日(月)気温は低いが日差しは暖かい研修会日和となった。16名の参加を得て近鉄大和八木駅を9時半出発。今回は橿原市観光ボランティア向本さんにガイドをお願いした。

駅から7分程で江戸時代の旅籠、平田家を改修した「八木札の辻交流館」に着く。「八木札の辻」は河内から伊勢に通じる「横大路」(伊勢街道)と大和から紀伊に至る「中街道」(古代の下ツ道)の重要な交差点であった。その当時の賑わい振りは幕府の高札場や、旅籠の平田家、現存する井戸などが「西国三十三所名所図会」に「八木札街」として描かれていてよく分かる。

下ツ道を少し南下し、大和七福神霊場のひとつ「おふさ観音」に初詣。



飛鳥川の流りに沿って下ると「蘇武橋」に至る。橋を渡ると今井町である。環濠を埋め立てた広い道路沿いにまるで撮影所のような真新しく改築された街並みが広がる。平成5年「重要伝統的建造物群保存地区」に指定された。

まず観光拠点の今井まちなみ交流センター「華薨」で向本さんの説明を聞く。華薨は明治36年高市郡教育博物館として建てられ、昭和に今井町役場となり、現在は復元されて明治建築が見事に蘇っている。

今井町は東西600m、南北310mの区域で、方眼状に道路が配されているが、途中で少し屈曲さ

せるなど、敵の侵入に備えて見通しできないようになっている。外周は環濠(今西家周囲のみ復元され、その他は道路)をめぐるし、城塞都市として栄えた街並みが見て取れる。

室町時代後期には一向宗(浄土真宗)の「称念寺」を中心として、すでに現在と同規模の寺内町が形成されていた。現在の今井町は電線の地下化が進みお蔭で往時の街並みを偲ぶことができる。

今井郷は一向一揆では石山本願寺派について信長に反抗しましたが、江戸時代には南大和最大の商工業都市に発展、堺と並び自治特権が認められた。江戸時代に建てられ今も住み続けている住宅9軒が国の重要文化財に指定されている。今西家内部を見学。1650年の建築で日本建築史上重要な建物のひとつといわれている。

重要文化財「称念寺本堂」は現在修理中で、江戸時代以来初めての大修理中で、あと数年掛るとのこと。残念ながら見学することは出来なかった。称念寺には明治天皇の大和行幸の際に「今井行在所」となり、ここで西南戦争勃発の第一報を聞かれたという記録が残っている。

「夢ら咲長屋」で昼食。ガイドと別れ、北口門跡を通過して「入鹿神社」へ。

ここでは古川さんの解説を拝聴する。

「入鹿神社」には素戔鳴尊、蘇我入鹿が祀られている。もともと入鹿のみを祀る神社だったが、明治政府は大逆臣の入鹿を神として祀るのは問題として、スサノオを祭神とし、名前を所在地名の小綱神社に改めるよう指示したが、地元住民はこれを拒否したといわれている。

古川さんはこの説明の中で、日本書紀の伝える「蘇我逆臣説」には組しないと。奇しくも3日後、小山田遺跡で舒明天皇墓と思われる、馬子の石舞台を上回る巨大方墳の濠が発掘された。蘇我氏の権勢は天皇家を凌いでいたという通説に疑問符がつけられたことになる。とすると「乙巳の変」の原因は？蘇我三代は果たして逆臣なのか？

次いで曾我町にある馬子が創建したと伝わる「宗我坐宗我都比古神社」に詣り、帰途についた。

(歴史文化クラブ 中井 弘)